

米販売動向調査（令和7年12月分）結果とりまとめ

1. 回答数 46 会員
2. 調査結果概要

Q1：昨年12月（6年12月）と比べた令和7年12月の米販売動向

「減った」と「やや減った」の回答を合わせると約76%となり、DI値は「25.5」。

Q3：3か月前（7年9月）と比べた米販売動向

「減った」と「やや減った」を合わせると約54%となり、DI値は「40.2」。

Q5：3か月先（8年3月頃）の米販売動向見通し

「減る見通し」と「やや減る見通し」を合わせると約52%となり、DI値は「38.4」。

3. 集計結果

Q1：昨年12月（6年12月）と比べた令和7年12月の米販売動向

回答者数（会員）					
合計	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
46	6	1	4	12	23
100.0%	13.0%	2.2%	8.7%	26.1%	50.0%

DI値
25.5

Q1(参考)規模別 DI値		
規模A	規模B	規模C
38.6	25.0	19.1

Q3：3か月前（7年9月）と比べた米販売動向

回答者数（会員）					
合計	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
46	9	4	8	10	15
100.0%	19.6%	8.7%	17.4%	21.7%	32.6%

DI値
40.2

Q3(参考)規模別 DI値		
規模A	規模B	規模C
38.6	50.0	34.5

Q5：3か月先（8年3月頃）の米販売動向見通し

回答者数（会員）					
合計	増える見通し	やや増える見通し	変わらない見通し	やや減る見通し	減る見通し
46	2	5	15	17	7
100.0%	4.3%	10.9%	32.6%	37.0%	15.2%

DI値
38.4

Q5(参考)規模別 DI値		
規模A	規模B	規模C
40.9	41.1	34.5

※「増えた」「増える見通し」は、「+5%以上」を指す。
 「やや増えた」「やや増える見通し」は、「+2～+5%未満」を指す。
 「変わらない」「変わらない見通し」は、「±2%未満」を指す。
 「やや減った」「やや減る見通し」は、「▲2～▲5%未満」を指す。
 「減った」「減る見通し」は、「▲5%以上」を指す。

※企業規模について

規模A：米穀の売上高が年間100億円以上、規模B：米穀の売上高が年間25億円以上～100億円未満
 規模C：米穀の売上高が年間25億円未満

～主な回答理由～

Q1：昨年12月（6年12月）と比べた令和7年12月の米販売動向

1. 令和7年産の米価上昇で消費者の購買意識が低下している。依然備蓄米が売れていると聞いている。
2. 前年は米騒動の時期でもあり販売量は伸び続けていたが、今年は米価も高騰しており、消費者は手が出せないのではないかと感じている。米離れが加速しているのではないかと感じている。米離れが加速しているのではないかと感じている。米離れが加速しているのではないかと感じている。
3. 量目の変化（10kg袋の減少）により、点数は増えるが重量ベースでは伸びない。

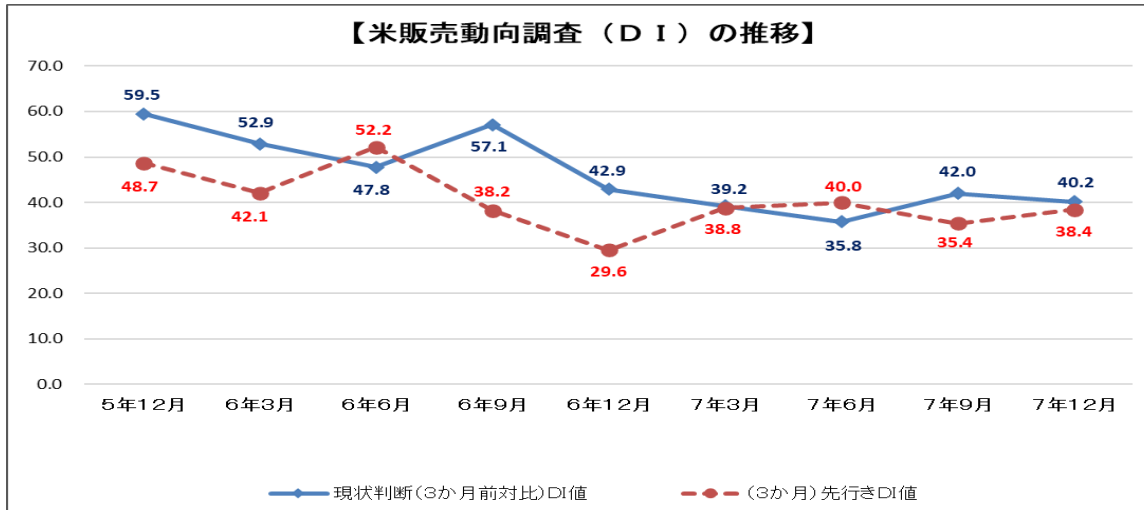
Q3：3か月前（7年9月）と比べた米販売動向

1. 令和7年産米への切り替えが本格化したことにより、単一銘柄米の価格が上昇し、販売進捗が鈍化。比較的単価が安いブレンド米が伸びている。
2. 精米は10%強の落ち込み、玄米販売は10%強の伸長で、トータルでは2%弱の物量の落ち込みだった。ただし、玄米販売の伸長は新規成約の進展によるものではなく、12月に受注が一時的に集中したことによるもの。

Q5：3か月先（8年3月頃）の米販売動向見通し

1. 納入価格の提案によっては、他社の損切りに合わせた価格案内ができず、減少する可能性がある。
2. 米価が下がる報道がなされ、価格も5kgで3,000円台まで推移していくのではないかと感じている。そうだとすると、米の販売量も回復していくのではないかと感じている。ただ、各社、高騰した米の在庫を持っており、厳しい状況は続いていくのではないかと感じている。
3. 現状、米の不足感が感じられない市場で、スーパーの売価を値下げしたとしても販売量が増える見通しが立たない。

【米販売動向調査（DI）の推移】



仕向先別内訳

Q2：昨年12月（6年12月）と比べた令和7年12月の米販売動向

<仕向先別>	合計	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った	DI指数
(小売店向け)		%	%	%	%	%	
大手スーパー	100%	3.0	6.1	15.2	27.3	48.5	22.0
中小スーパー	100%	7.0	7.0	18.6	20.9	46.5	26.7
米穀専門店	100%	0.0	2.6	10.3	23.1	64.1	12.8
その他	100%	11.4	0.0	8.6	20.0	60.0	20.7
(外食産業向け)							
外食向け	100%	7.0	7.0	46.5	18.6	20.9	40.1
中食向け	100%	2.3	9.3	32.6	32.6	23.3	33.7
給食向け	100%	4.5	6.8	59.1	18.2	11.4	43.8

Q4：3か月前（7年9月）と比べた米販売動向

<仕向先別>	合計	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った	DI指数
(小売店向け)		%	%	%	%	%	
大手スーパー	100%	12.5	18.8	9.4	15.6	43.8	35.2
中小スーパー	100%	7.0	16.3	18.6	20.9	37.2	33.7
米穀専門店	100%	2.6	7.7	23.1	17.9	48.7	24.4
その他	100%	9.1	6.1	9.1	9.1	66.7	20.5
(外食産業向け)							
外食向け	100%	9.3	11.6	39.5	23.3	16.3	43.6
中食向け	100%	4.7	9.3	39.5	32.6	14.0	39.5
給食向け	100%	0.0	6.8	65.9	13.6	13.6	41.5

Q6：3か月先（8年3月頃）の米販売動向見通し

<仕向先別>	合計	増える見通し	やや増える見通し	変わらない見通し	やや減る見通し	減る見通し	DI指数
(小売店向け)		%	%	%	%	%	
大手スーパー	100%	3.1	21.9	34.4	28.1	12.5	43.8
中小スーパー	100%	4.7	14.0	37.2	30.2	14.0	41.3
米穀専門店	100%	0.0	0.0	43.9	26.8	29.3	28.7
その他	100%	0.0	0.0	42.9	20.0	37.1	26.4
(外食産業向け)							
外食向け	100%	0.0	11.6	58.1	25.6	4.7	44.2
中食向け	100%	0.0	4.7	60.5	30.2	4.7	41.3
給食向け	100%	0.0	2.3	77.3	15.9	4.5	44.3

*DI (diffusion index) の算出方法：内閣府で発表している「景気ウォッチャー調査」方式を採用した。具体的には、5つの回答選択肢に均等に0～1の評価点を与え、各回答の構成比に対応するそれぞれの評価点を乗じ、それらの合計を指数(%ポイント)としてDI値を算出。それが50の場合は横ばい(現状維持)を示す。0に近づくほど販売が低迷傾向にあることを示し、逆に100に近づくほど販売が好調傾向であることを示す。

(算出例)	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
評価点 A	1	0.75	0.5	0.25	0
結果(構成比) B	17.8	20.0	20.0	22.2	20
各DI値 C=A×B	17.8	15	10	5.6	0
DI値(合計)	48.4→米販売の動きはほんの少し低迷傾向				